

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1274900073		
法人名	有限会社 グレイスケア		
事業所名	グループホーム山里		
所在地	千葉県香取市新里1182-12		
自己評価作成日	平成23年3月14日	評価結果市町村受理日	平成23年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティーケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成23年6月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山里は、2ユニットに分かれていて山の家は和風の雰囲気なので全面が畳みになっていて、浴室も檜のお風呂となっています。里の家は洋風の雰囲気になっているので、リビングは全面フローリングになっていて、浴室も明るい清潔な家庭的なお風呂となっています。行事なども多く、ホーム内の行事ですと誕生会やその月に合った行事(ひな祭り会、敬老会、クリスマス会など)を行っています。外出も多く桜の花見や毎月行う懇談会で利用者様からの要望などを取り入れて企画し外出先を決めることもあります。庭園には鳥やヤギも飼育されていて畑もあるので時期に合った野菜を利用者様と一緒に収穫や調理をして提供しています。理念にかかげている一人一人の気持ちを尊重し、ゆったりと楽しく生活していく中で、無理のない程度の役割を持ち安心して生活できるように心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム山里は緑が多く自然豊かな場所にあり、和風の「山の家」と洋風の「里の家」の2ユニットでそれぞれの雰囲気を楽しめる造りになっている。地域包括支援センター委託で「よろず相談所」としての役割を担ったり、地域住民との繋がりを大切にする働きかけも多く、地区の中心となるホームになっている。また、職員はホームの理念の意味を理解し、入居者が「生活の主役になる」ようにゆったりと楽しく生活できるように支援を行っている。その支援は、入居者の退所後も家族と付き合いが継続していることでもわかる。庭の畑では色々な野菜が収穫でき、自給自足・手作りにこだわるところもホームの特徴であり、入居者と共に季節を感じながら収穫を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の時にその日の職員で理念を復唱している。また職員会議の時に理念を皆で復唱し実践につなげるように努めている。	職員は理念の意味を気持ちのこもった言葉であると理解し、朝礼で復唱、職員会議で周知している。また、法人の月間目標も復唱して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	敬老会の日にホームで赤飯を作り利用者と職員とで近所に配布したり、近所の方々はほとんど農家なので畑で採れたものを届けてくれたり、散歩に出たときに近所の方々と挨拶を交わしたり、お話ししたりしている。	地域住民に納涼祭や避難訓練に参加してもらい、敬老の日にはホームで作った赤飯を入居者と一緒に配っている。小学生が来訪して踊りを見せてくれたり、地域の住民からは野菜が色々届くなど近隣の人達との触れ合いは多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月作成している山里便りを近所に配布している。その際利用者と共に訪問している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況、職員の状況、行事、事故報告、苦情報告をし、できるだけ家族に意見を述べていただけるように配慮している。	運営推進会議は家族や市の職員が参加し2ヶ月に一度開催している。色々な意見を聞くために、ヒヤリ・ハットや事故報告の報告も行い、会議の議事録はホームに掲示して、透明性のある会議にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には運営推進会議に毎回出席を依頼し、実際のホームの生活を見ていただき、また会議では実際に利用者で作っている食事を召し上がっていただくこともある。	地域包括支援センターからの依頼で「よろず相談所」の窓口になっている。「山里たより」を市の窓口毎月届けたり、家族の意見が外部者に表せるよう、市や地域包括支援センターの担当者に運営推進会議に参加してもらえうよう、積極的に働きかけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠に関しては日中はしていないが、夜勤帯に職員がひとりになる時間は家族の了承を得て夜の7時から翌朝の7時まで施錠している。身体拘束はしていない。	安全のため、家族の了解のもと、やむを得ず車いすのベルトを使用する場合も、期間と時間を定めて、拘束が当たり前にならないように意識している。職員はスピーチロックも含め身体拘束の意味を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内、社外研修で身体拘束とは何かを学び、職員全員の質の向上を目指している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内、社外研修で学び必要な場合には支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時家族から疑問に思うことやその他の質問を受け丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見が外部者に表せる機会を設けている。また会議結果報告は担当区に配布している。またそのときに出た意見にはなるべく沿うように努めている。	入居者とは月1回懇談会を開き、行きたい所や食べたいものなど希望や意見を聞いている。家族からは面会時の聞き取り、運営推進会議では家族のみの意見交換時間を設けるなど、自由に意見を出してもらおう工夫し、ケアや運営に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は日々現場から管理者へ上げている。また職員会議において意見や提案を上げてもらっている。匿名のアイデアボックスを設置している。改善できる点は取り入れられている。	職員会議を定期的に行っている。意見の把握を行っている。現在意見を出しやすくする目的で始まったアイデアボックスには意見が入らなくなり、普段から意見が言いやすい体制が出来始めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日中、夜間、週に何度か現場を回り職員個々の勤務状況を把握し、その結果を賞与や昇給に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、中堅それぞれに社内外の研修参加を奨励し、自己の向上、研鑽の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香取市地域密着サービス委員会(同業者)の会議に毎回管理者が参加している。また計画作成担当者は香東地区連絡会(ケアマネ連絡会)に参加している。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行い、できること、できないこと、生活に対する意向を聞いている。また遠慮しないで話せるような信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントで家族の思いを聞くようにしている。また今後家族と協力しながら介護するにあたりなるべく家族にも役割をもっといただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスへいつでもつなげられるように他のサービス機関とのつながりを絶たないようにしている。山里便りを訪問配布している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者がやりましょう、利用者がやってくださいではなくいっしょにやりましょうという視点で生活の主になってもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に食事を一緒にとってもらったり、行事に参加してもらったりまた、食事介助を行なっていただいたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも昔からのご友人などいつでも来所できるようにしている。またなじみの場所に行き物に行ったり、ドライブに行ったりしている。	友人や家族が近所の人と一緒に来訪している。馴染みの商店への買い物やホームを退所した元入居者に会いに行くこともあり、交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性のいい人同士対話ができるような場面を作ったり、共同作業をセッティングしたりしている。利用者同士協力して生活を営んでいるという実感を持っていただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても家族が立ち寄って自分の畑で採れた野菜や花をもってきてくれている。その際家族の思いを聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際、本人の思いを聞けるように対話している。また日々職員も本人の真のニーズとは何か留意しながら接し計画作成担当者や管理者に情報を伝えている。。	お風呂や足浴の時など、一対一で向き合う時間にゆっくりとコミュニケーションを取って、思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて実施している。本人、家族から情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、モニタリングにて実施している。本人、家族から情報を頂いている。また心身状態に変化が生じることもあるため家族と連絡を密にしている。また日々関わる職員はできることの見極めを念頭にいれ利用者と接している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、担当者会議、カンファレンスを開催し介護計画を見直している。主治医の意見や家族の意見を取り入れるようにしている。	入居者本人、職員複数名で担当者会議を開催し、本人本位の介護計画になるように心がけている。また、3ヶ月に1回はモニタリングを行い、現状と計画にずれがないか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はサービス提供記録表、業務日誌、申し送りノートに記録し利用者情報を職員全員が共有できるようにしている。またモニタリング時にその情報を活用し介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	プランどおりのサービスに固執せず、例えば、帰宅願望が強くなり外へ出ようとされた方に付き添って7km一緒に歩いたりしたことや、遠方の家族が薬もらいに行けずに職員の方で対応するなどある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の畑の収穫の手伝いを少しいただいで食材としたりすることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の希望を伺い主治医を決めて受診している。ただしホームの協力医を主治医とした場合には職員が通院介助している。歯科については協力歯科医が往診してくれている。	かかりつけ医への通院は家族の協力を得ているが、ホームで記録している詳細なバイタル表で医師に情報提供をするなど、連携を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師は在籍していない。個人契約の訪問看護ステーションがありその利用者について緊急時や不安な時は24時間連絡する体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活状況などの情報提供をしている。また面会に行き入院中の利用者の状況や退院の見込みの情報が聞けるように病院関係者とコミュニケーションをとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、面会時に事業所でできることについては理解してもらえようとお話しの機会を持っている。ホームでの生活が難しくなった場合には地域の関係者と密に連絡をとり情報収集し家族に伝えている。	ホームとしては医療行為が必要になるまでと方針を決めており、契約時に家族、本人によく説明している。入院、退院等状況が変化した場合は、その都度家族等と話し合いながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署から緊急時の対応について講習に来てもらいAEDの使い方などを勉強している。また社内研修でも勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を行なっている。また近隣の方々にも参加していただけるように案内を配布した。消火器の使い方、避難時の経路の確認、非常食の備蓄も行なっている。	消防署直通の電話を設置している。避難訓練実施の際、地域にも呼びかけたが、1名の参加があったただけなので、今後は運営推進会議で避難訓練を実施することも検討している。ホームに隣接して法人経営者の住居があり、緊急時には駆けつけてくれる。	経営者や家族が駆けつけてくれるが、特に夜間は職員が一人だけになることもあり、日頃の訓練の強化が必要と思われる。職員全員が避難訓練に参加すること、また、消防署直通の電話の使い方等も日頃から確認しておくことが望まれる。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳とはなにか、プライバシー保護とは何かを社内外研修で勉強し、またスピーチロックに関しても勉強し職員各々が気をつけている。	職員は外部、内部の接遇研修を受けている。特に言葉づかいには注意し、傾聴を心掛け入居者に安心感を持ってもらえるように努めている。また、入浴や排泄介助時にはドアをきちんと閉めるなど、基本的なことを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	懇談会で希望、要望を聞いたり、また日々接しているときに何気ない会話から希望を拾ったり、どうしたいのか本人が自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のその日の心身状況に合わせてその方のペースに合わせている。例えば寒い朝目覚めが遅れた方にはその方の時間のペースに合わせて食事を提供している。散歩をしたい、外に出たいなどその日の希望になるべく浴えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服はなるべく本人に選んでいただくようにし行事の時などお化粧をさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃何を食べたいか希望を聞いてなるべく食べたいものを食事のメニューに取り入れるようにしている。またホットプレートを活用しおやつ作りなど一緒にできる物は作るようにしている。毎回ではないが後片付けも職員と一緒にこなしている。	ホームの敷地内に広大な畑があり、常時十数種類の野菜を育てている。取れたての野菜を使い、職員がその日ある食材で、入居者の希望を取り入れながら食事を作っている。入居者もできるところは参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事、食事量、飲水量の確認、記録を行い、体重の増減にも注意している。また、認知症の周辺症状などにより食が進まなかったり、欠食をしてしまう場合には家族、主治医と相談し栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所に利用者を誘導し歯磨き、うがい、入れ歯洗浄、を実施している。また定期的に協力機関の歯科医に訪問歯科検診を行なってもらって、口腔ケアの重要性を職員は理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時にトイレの声かけをおこない、誘導している。また自らトイレの訴えができる方には安全に排泄ができるように介助している。記録をとりトイレパターンをつかむように努めている。	一人ひとりのパターンを把握し、時間を見てトイレ誘導している。夜間はポータブルトイレを使用するなど、できるだけ、トイレで排泄することを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により周辺症状がおこりやすいことを皆で認識し排便に関しては特に気を遣っている。食物繊維が取れるような食事、水分が摂れるようにするなど。また下剤でコントロールしている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は午後としているが、就寝前に入りたいという場合にはそのように対応している。	日曜日は足浴と清拭にしているが、それ以外の日は毎日入浴可能である。入浴を拒む人にはタイミングを見て何度でも声をかけ、入ってもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居する際なるべく利用者が使っていた寝具を持ってきていただいている。また夜間居室の空調、気温、湿度などにも配慮し、夜間巡回時温度調節を行なっている。乾燥には濡れたタオルを居室に干している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は薬局から必ず毎回いただいている。新しい薬が追加になったときには副作用などを聞くようにしている。また症状が変化した場合には医師に報告して指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割についてはその方の生活歴を聞き取り、できること、できそうなことを見つけるように努めている。楽しみごとについては例えば出来る方にはおやつを自己管理してもらったり、花を育ててもらったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	普段行けないような場所は毎月の懇談会で希望を聞き取りなるべく希望に沿うように努めている。その際遠方の場合には家族にも声をかけて参加していただくこともある。その日その日の外出希望には天気のいい日に散歩やドライブ、買い物を実施している。	天気が良い日は、外に出るようにしている。ホームの庭ではヤギや鶏、犬を飼っており、餌やりを楽しみにしている人もいる。また、食材を買いに行くときに一緒に買い物に行ったりしている。今年は地震の影響でお花見は中止したが、近々アジサイ見物に行く予定がある。	

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方ばかりなので、ご家族と外出した際にお菓子を買ったりお金を使う支援は家族にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したいという希望があるときには電話で話すことができるように支援している。毎年書中見舞い、年賀状を書ける方には書いていただき書けない方は介助し郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに書初め、雛人形や鯉のぼりなど季節に合わせた飾り付けを職員と一緒に利用者に行なってもらっている。玄関の花など利用者に活かしていただき心地よい空間作りに参加してもらっている。	フローリングの洋風ユニットと全て畳敷きの和風ユニットがあり、どちらも居間の外にウッドデッキがある。室温や明るさも適切に保たれており居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが広いので食事時間以外は思い思いの場所で過ごしていただいている。リビングのソファ、掘コタツスペース、食卓テーブルなどで相性の合う方同士で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳敷きで清潔にしている。家族が面会にこられた際、居室でくつろいでいただいている。身の回りの品物はできるだけ使い慣れたものを持ってきていただくように家族に協力してもらっている。	ベッドを入れている人、畳に布団の人など、それぞれが心地よく過ごせるような居室にしている。大きなクロゼットがあるので、そこに殆どの品が収まっており、シンプルな部屋が多いが、中にはいろいろ馴染みの品を持ってきている人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂の場所、トイレの場所はできるだけ自分で行けるようにのれんや貼り紙で特に分かりやすいように配慮している。また自室が分からなくなる方には本人、家族の了解得て表札をつけた。安全面では壁に手すりを設置して、自力歩行が続けられるようにしている。		

【評価機関】